

青い空に浮かぶ白い雲 14

—この空の広さ—

東大和市教育委員会 教育長 真如昌美



(今日の言葉) 「3日後に来い」 日本将棋連盟前会長 米長邦雄

青い空に浮かぶ白い雲

この「青い空に浮かぶ白い雲」という教育長日記に付けた題名について、どんな気持ちで名付けたのかと聞かれることがありました。改めて聞かれると自分でもよく分からなくなり、「今年の夏は猛暑、酷暑、青や白が印象的でしたから…」と言ってお茶を濁してきました。

それにしても、今年はどうしてこんなに青い空に浮かぶ白い雲にひかれるのだろう…。

先日、あらためて冬の空を見上げてみて、そこで、ハタと気がつきました。それは、東大和の空の広さにありました。私の好きな東京タワー、その先にも青い空に白い雲が見えましたが、これだけ大きな青空と白い雲はここからは見えませんでした。

東大和の青い空は、どこまでも広く、どこまでも続き、その空にはいつも真っ白な雲が浮かんでいました。新橋、浜松町の夜の明かりにもひかれますが、この青い空に浮かぶ白い雲には自然のやさしさがありました。

学校、地域、関係機関の方々和我们市役所組が一緒に知恵を出し合い協力してきた一年が、もう間もなく終わります。除夜の鐘を聞きながら よいお年をお迎えください。

おもてなし

世の中にはカウンターが至る所にあります。そして、そのカウンターは、他と一線を隔す上で役に立つ場合が多くありますが、その分、訪問する側にとっては、少し抵抗を感じさせるものでもあります。その上、迎える側が仏頂面では「来なきゃよかった」「何とかなんないのかね～」となります。

「おもてなし」という言葉がよく聞かれるようになりました。保護者や地域の方々はもちろん、校長室にみえたお客様もすべて学校の大切なお客様です。私は、笑顔でお迎えできることこそ一番の「おもてなし」だと思っています。

「おもてなし」で有名なのはサントリーホール。世界一流の指揮者が、日本に行くならサントリーホールで演奏したいと望むのだそうです。サントリーホール支配人 福本ともみさんは、「ホールで働く人たちの熱い気持ち、誇りや心配りが最高の財産。それをもち続けてもらえるよう働く環境を作るのが私の最大の役割」と言っていました。そんな経営姿勢から、気持ちのよい「おもてなし」が生まれてくるのですね。一昨年サントリーホールのステージで挨拶する機会がありました。それまでの気持ちのよい「おもてなし」に、つい挨拶の途中でワンフレーズだけ即興で歌を歌ってしまいました。声がホールの奥までツーっと通り、建物全体が「おもてなし」で満ちているようでした。

3日後に来い

日本将棋連盟前会長で永世棋聖である米長邦雄さんが69歳で亡くなりました。

翌日の新聞各紙は生前の米長さんを大きく取り上げていました。毎日新聞では、萩本欽一さんの話を紹介していました。

(前略) ある時「お弟子さんが随分たくさんいるけれど、怒ることはないのか」と尋ねたところ、「すぐに怒ると、言わなくていいことまで言ってしまう。だから『3日後に来い』と言う。3日たつとほとんど怒らなくて済む」と言われました。

米長邦雄さんは、平成11年から平成19年まで東京都教育委員を務め教育改革を進めた方でもありました。

合掌

【お知らせ】

※教育長日記は、[東大和市役所公式ホームページ](#)⇒[教育委員会](#)⇒[教育委員会の紹介](#)⇒[教育長日記](#)でも読んでいただくことができますようになりました。どうぞご利用ください。